

加速器質量分析法による蝦夷錦の放射性炭素年代測定

Radiocarbon Dating of the silk fabrics laced with colored threads "Ezo Nishiki" by AMS

小田 寛貴¹⁾ 中村 和之²⁾ 天野 光³⁾ 吉田 滯代⁴⁾ 瀧本 壽史⁵⁾

Hiroataka ODA Kazuyuki NAKAMURA Shoji KABUTO Takayuki TANAKA Hikaru AMANO Miyo YOSHIDA Hisafumi TAKIMOTO

¹⁾名大年代センター ²⁾函館工専³⁾日本分析センター ⁴⁾名大物産センター ⁵⁾青森県立大湊高校

中国からアムール川流域・サハリンを経由し北海道・東北地方にいたる「北のシルクロード」. その交易品である蝦夷錦の¹⁴C年代を測定し, 17世紀半ば以降の清代に制作されたものが, 北のシルクロードを経由して, 北海道・東北地方に伝来していたこと, さらに, その起源が元代末もしくは明代初頭にまでさかのぼることを示す物証を得た.

キーワード: 蝦夷錦, 加速器質量分析法, 放射性炭素年代測定法, 北のシルクロード

1. 目的 北海道・青森県を中心に, 金銀糸・色糸で龍や牡丹などの文様を織り出した蝦夷錦とよばれる絹織物が伝来している. 蝦夷錦は, 元々は中国の江南地方で制作されたものであるが, 北京からアムール川を下り, 間宮海峡を越えサハリンに渡り, 南下して北海道, さらには松前藩を介してのアイヌとの交易品「蝦夷錦」として日本にもたらされるに至った. 蝦夷錦の伝来したこの道は「北のシルクロード」とよばれている. 交易の担い手の中心となったのは, 山丹(サンタン)人と呼ばれるアムール川下流域・サハリンの北方先住民族(ニヴフ・ナーナイ・オルチャなど)とアイヌである. 北のシルクロードでの交易は18世紀後半から19世紀初頭に全盛期を迎えるが, その始まりはさらに古く, 元朝がアムール川・サハリンに進出した13世紀後半にまでさかのぼる可能性がある. 「敦武校尉管軍上百戸張成墓碑」には, 張成という元朝の軍人が1286年に「黒龍江(アムール川)の東北の極辺」において屯田を営んでいたことが記されている. また, 明代には, 第三代皇帝永楽帝が勢力拡大を図る中で, アムール川下流域に亦失哈(イシハ)を派遣し朝貢交易を行っている. 「勅修奴兒干永寧寺記(永楽碑)」・「重建永寧寺記(宣德碑)」・『明実録』といった古記録からは, 亦失哈の遠征により中国製の絹織物がアムール川流域にもたらされたことを読み取ることができる. しかし, 北のシルクロードの主要な交易品であった蝦夷錦自体については, 墨書などから清代のものと判明しているものが数点確認されているだけにすぎず, 明代・元代のものについては知られていない. そこで, 現存する蝦夷錦について加速器質量分析法による¹⁴C年代測定を行い, その制作年代を求めること, さらに, 北のシルクロードが交易路として機能していた時期, 特にその起源を明らかにすることを目的として本研究を行った.

2. 方法 ¹⁴C年代測定を行った20点の蝦夷錦を表1に示した. また, 比較および考察のために, 先行研究(小田・中村, 2008)において測定された蝦夷錦14点, 試料調製の収率が低く年代測定を行わなかった資料1点(ENI6)についてもあわせて示した. ENI6~ENI9の4資料は函館市北方民族資料館蔵「鱗文山丹服(蝦夷錦を用いた中国の官服)」の各部位から採取したものである. 同様に, ENI10~ENI14の5資料は函館市北方民族資料館蔵「龍文山丹服」, ENI29~ENI35の7資料はサハリン州立郷土博物館蔵「ニヴフの蝦夷錦製帽子」という同一資料の異なる部位から採取したものである. 各資料から6~75mg程度の絹片・紙片を試料として採

取し、以下の調製に供した。まず、蒸留水中において超音波洗浄(r. t., ca. 80min)を行った後、ホットプレート上にて蒸留水による洗浄を行った(50-60°C, ca. 12h)。次いで、1.2N HCl による処理を行った(常温にて一晩放置した後、ホットプレート上にて加温し洗浄(60-70°C, ca. 6h))。これを蒸留水で洗浄した後、真空デシケーター中にて乾燥させた。上記の調製により得られた試料の一部をCuOによって酸化(850°C, 2h)させ、CO₂とした後、これを真空ラインにて精製した。続いてこのCO₂の1~2mgを、Feを触媒としてH₂により還元(650°C, 6h)することでグラファイトに調製した。日本原子力研究開発機構(JAEA)青森研究開発センターむつ事務所に設置されているタンデム加速器質量分析装置(JAEA-AMS-MUTSU)を用いて、これら蝦夷錦資料の¹⁴C年代測定を行った。なお、JAEA-AMS-MUTSUによって測定された¹³C/¹²Cによって、¹⁴C年代算出の際の同位体分別効果の補正を行った。

表1. 蝦夷錦資料

Sample Name ¹⁾	所蔵者・所蔵機関	資料名	色・文様等
ENI 1*	北海道厚岸町池田美智子氏	蝦夷錦打敷	青地・龍文
ENI 2*	北海道厚岸町池田美智子氏	蝦夷錦打敷	赤地・龍文
ENI 3*	北海道厚岸町池田美智子氏	蝦夷錦打敷	赤地・牡丹文
ENI 4*	北海道厚岸町池田美智子氏	蝦夷錦打敷	赤地・龍文(小円)
ENI 5*	北海道札幌市伊達東氏	蝦夷錦座布団の元布	赤地・牡丹文
ENI 6	函館市北方民族資料館	山丹服(織)	鱗文(龍文(四爪)), 絹糸片(青色・水色)
ENI 7	函館市北方民族資料館	山丹服(織)	鱗文(龍文(四爪)), 絹片(水色)
ENI 8	函館市北方民族資料館	山丹服(織)	鱗文(龍文(四爪)), 紙片(藍色)
ENI 9	函館市北方民族資料館	山丹服(織)	鱗文(龍文(四爪)), 紙片(白色)
ENI 10	函館市北方民族資料館	山丹服(刺繍)	龍文(五爪), 腰部の絹片(茶色)
ENI 11	函館市北方民族資料館	山丹服(刺繍)	龍文(五爪), 腰部の紙片(白色)
ENI 12	函館市北方民族資料館	山丹服(刺繍)	龍文(五爪), 袖部の絹片(黒色)
ENI 13	函館市北方民族資料館	山丹服(刺繍)	龍文(五爪), 袖部の紙片(紺色)
ENI 14	函館市北方民族資料館	山丹服(刺繍)	龍文(五爪), 袖部の紙片(白色)
ENI 15*	北海道江差町教育委員会	蝦夷錦袱紗	龍文
ENI 16*	北海道松前町法源寺	蝦夷錦柱隠	赤地・牡丹文
ENI 17	北海道松前町法源寺	蝦夷錦柱隠	赤地・牡丹文
ENI 18	北海道松前町法源寺	蝦夷錦柱隠	赤地・牡丹文
ENI 19*	北海道松前町教育委員会	蝦夷錦	茶地・龍文
ENI 20	北海道松前町教育委員会	蝦夷錦陣羽織	茶地・龍文
ENI 21	北海道松前町教育委員会	蝦夷錦	赤地・牡丹文
ENI 22	北海道松前町教育委員会	蝦夷錦求福山見返り幕	龍文, 裏側端のほつれ糸
ENI 23*	北海道松前町教育委員会	求福山洞幕(蝦夷錦?)	鳳凰文
ENI 24*	秋田県男鹿市小早淳氏	蝦夷錦	緑地・龍文
ENI 25*	秋田県男鹿市小早淳氏	蝦夷錦	茶地
ENI 26	秋田県男鹿市小早淳氏	蝦夷錦	紺地・龍文
ENI 27*	秋田県男鹿市小早淳氏	蝦夷錦	天蓋・波・斜線文様
ENI 28*	秋田県男鹿市大龍寺	蝦夷錦	龍文(四爪)(「花畑文」)
ENI 29	サハリン州立郷土誌博物館	ニヴフの帽子(蝦夷錦)	青地, 顎紐
ENI 30*	サハリン州立郷土誌博物館	ニヴフの帽子(蝦夷錦)	赤地
ENI 31	サハリン州立郷土誌博物館	ニヴフの帽子(蝦夷錦)	茶地
ENI 32	サハリン州立郷土誌博物館	ニヴフの帽子(蝦夷錦)	茶地
ENI 33	サハリン州立郷土誌博物館	ニヴフの帽子(蝦夷錦)	こげ茶地
ENI 34	サハリン州立郷土誌博物館	ニヴフの帽子(蝦夷錦)	こげ茶地
ENI 35	サハリン州立郷土誌博物館	ニヴフの帽子(蝦夷錦)	山吹地

1) * 印のあるものは(小田・中村, 2008)において測定した資料, 無印のものは本研究において測定した資料である。

3. 研究成果 測定結果を表2に示した。得られた ^{14}C 年代は、INTCAL98(Stuiver *et al.*, 1998)によって暦年代に校正した。校正年代の表記法については、本稿では ^{14}C 年代の中央値を校正した結果を()の内側に、 ^{14}C 年代の誤差範囲を校正した値を()の外側に示すものとした。例えば ENI 7では、 ^{14}C 年代が 246 ± 31 [BP], 校正年代が 1643(1654)1664, 1785()1786 [cal AD]と記載してある。これは、 ^{14}C 年代の中央値 246 [BP]が 1654[cal AD]に校正され、 ^{14}C 年代の測定誤差 ± 31 [BP]と校正曲線の誤差から求められる校正年代の誤差範囲が 1643~1664 および 1785~1786 [cal AD]となることを示している。

表2. 測定結果

Sample Name ¹⁾	^{14}C 年代 [BP] ²⁾	校正年代 [cal AD] ²⁾
ENI 1*	130 ± 17 ± 35	1682(1689)1699, 1723(1729)1734, 1807(1810)1814, 1833()1879, 1916(1922)1930, 1947(1948)1949 1677(1689, 1729)1762, 1803(1810)1889, 1909(1922)1938, 1946(1948)1950
ENI 2*	133 ± 18 ± 37	1681(1687)1679, 1725(1730)1735, 1806(1810)1814, 1834()1877, 1916(1923)1932, 1947(1948)1949 1676(1687, 1730)1765, 1766()1776, 1802(1810)1888, 1910(1923)1939, 1946(1948)1950
ENI 3*	116 ± 18 ± 37	1687(1695)1713, 1716(1725)1730, 1809(1813, 1843, 1876)1887, 1911(1917)1924, 1948(1949)1950 1680(1695, 1725)1736, 1805(1813, 1843, 1876, 1917)1933, 1947(1949)1951
ENI 4*	117 ± 18 ± 36	1686(1694)1712, 1717(1726)1730, 1809(1813, 1847, 1875)1886, 1911(1918)1924, 1948(1949)1950 1680(1694, 1726)1736, 1805(1813, 1847, 1875, 1918)1933, 1947(1949)1951
ENI 5*	79 ± 17 ± 35	1712()1717, 1887(1905, 1905)1911, 1950(1951)1952 1694()1726, 1813()1846, 1875(1905, 1905)1917, 1949(1951)1953
ENI 7	246 ± 31 ± 62	1643(1654)1664, 1785()1786 1531()1545, 1635(1654)1672, 1778()1799, 1943()1945
ENI 8	210 ± 25 ± 49	1657(1665)1672, 1778(1784, 1790)1799, 1943()1945 1648(1665)1679, 1740()1753, 1756(1784, 1790)1804, 1935()1947
ENI 9	219 ± 28 ± 55	1654(1663)1670, 1780()1798 1644(1663)1678, 1742()1749, 1758()1804, 1936()1946
ENI 10	234 ± 29 ± 57	1647(1658)1667, 1783()1793 1639(1658)1674, 1776()1801, 1940()1946
ENI 11	249 ± 26 ± 51	1643(1653)1661 1535()1535, 1637(1653)1669, 1781()1796
ENI 12	216 ± 26 ± 52	1655(1663)1671, 1779(1785, 1785)1798, 1945()1945 1645(1663)1678, 1742()1749, 1758(1785, 1785)1804, 1936()1946
ENI 13	204 ± 27 ± 54	1658(1667)1674, 1777(1782, 1794)1801, 1941()1946 1649(1667)1682, 1734(1782, 1794)1807, 1930()1947
ENI 14	211 ± 29 ± 59	1655(1665)1673, 1778(1784, 1788)1799, 1942()1945 1645(1665)1681, 1735(1784, 1788)1806, 1932()1947
ENI 15*	191 ± 18 ± 35	1665(1670)1675, 1776(1780)1784, 1790(1797)1801, 1939()1946 1660(1670)1681, 1735(1780, 1797)1806, 1933()1947
ENI 16*	130 ± 18 ± 35	1682(1689)1699, 1723(1729)1734, 1807(1810)1814, 1833()1878, 1916(1922)1930, 1947(1948)1949 1677(1689, 1729)1762, 1803(1810)1889, 1909(1922)1938, 1946(1948)1950
ENI 17	200 ± 28 ± 56	1659(1668)1675, 1776(1782, 1795)1802, 1939()1946 1650(1668)1684, 1732(1782, 1795)1808, 1927()1947
ENI 18	194 ± 25 ± 51	1662(1669)1677, 1762(1780, 1797)1803, 1938()1946 1654(1669)1684, 1732(1780, 1797)1808, 1927()1948
ENI 19*	92 ± 17 ± 34	1700()1723, 1815()1832, 1880(1890, 1909)1915, 1949(1950)1951 1690()1728, 1811(1890, 1909)1921, 1948(1950)1952
ENI 20	210 ± 27 ± 54	1656(1665)1673, 1778(1784, 1789)1799, 1943()1945 1646(1665)1680, 1736(1784, 1789)1805, 1933()1947
ENI 21	76 ± 26 ± 51	1707()1719, 1821()1827, 1884()1913, 1950(1951)1952 1689()1729, 1811()1922, 1948(1951)1954

1) * 印のあるものは(小田・中村, 2008)において測定した資料, 無印のものは本研究において測定した資料である。

2) 上段は 1σ , 下段は 2σ の誤差範囲を示す。

表2. (続き)

Sample Name ¹⁾	¹⁴ C年代 [BP] ²⁾	較正年代 [cal AD] ²⁾
ENI 22	166±31 ±62	1669(1677)1687, 1730(1761)1781, 1796(1803)1810, 1924(1937, 1946)1948 1659(1677)1707, 1719(1761, 1803)1821, 1827()1884, 1913(1937, 1946)1950
ENI 23*	224±21 ±41	1654(1661)1667, 1782()1795 1646(1661)1673, 1778()1800, 1942()1945
ENI 24*	208±22 ±44	1659(1666)1672, 1778(1783, 1791)1799, 1943()1945 1651(1666)1678, 1742()1749, 1758(1783, 1791)1804, 1936()1946
ENI 25*	162±20 ±41	1672(1678)1684, 1732(1743, 1749, 1758)1778, 1799(1804)1808, 1926(1936)1943, 1945(1946)1948 1666(1678)1693, 1726(1743, 1749, 1758)1783, 1793(1804)1813, 1853()1859, 1918(1936, 1946)1949
ENI 26	214±27 ±53	1655(1664)1671, 1779(1785, 1787)1798, 1944()1945 1645(1664)1679, 1740()1753, 1756(1785, 1787)1804, 1935()1947
ENI 27*	138±20 ±41	1679(1685)1695, 1725(1731)1740, 1754()1756, 1804(1809)1813, 1846()1875, 1917(1925)1935, 1947(1948)1949 1673(1685)1715, 1715(1731)1777, 1800(1809)1888, 1910(1925)1942, 1946(1948)1950
ENI 28*	202±21 ±42	1661(1667)1673, 1778(1782, 1795)1800, 1942()1946 1654(1667)1679, 1740()1754, 1756(1782, 1795)1804, 1935()1947
ENI 29	146±27 ±55	1675(1683)1694, 1726(1733)1776, 1801(1807)1813, 1849()1865, 1918(1929)1940, 1946(1947)1949 1667(1683, 1733)1782, 1795(1807)1891, 1908(1929, 1947)1950
ENI 30*	207±20 ±40	1659(1666)1672, 1779(1783, 1791)1798, 1944()1945 1652(1666)1677, 1760(1783, 1791)1803, 1937()1946
ENI 31	246±22 ±44	1645(1654)1661 1640(1654)1668, 1782()1795
ENI 32	153±24 ±48	1674(1681)1690, 1728(1735)1777, 1800(1806)1811, 1921(1932)1941, 1946(1947)1948 1667(1681)1707, 1719(1735)1782, 1795(1806)1821, 1827()1884, 1913(1932, 1947)1950
ENI 33	218±27 ±55	1654(1663)1670, 1780()1798 1644(1663)1678, 1742()1749, 1758()1804, 1936()1946
ENI 34	266±30 ±61	1638(1646)1657 1523()1566, 1628(1646)1667, 1783()1793
ENI 35	539±24 ±49	1335()1335, 1401(1409)1421 1328()1344, 1394(1409)1433

1) * 印のあるものは(小田・中村, 2008)において測定した資料, 無印のものは本研究において測定した資料である。

2) 上段は1 σ , 下段は2 σ の誤差範囲を示す。

4. 結論・考察 (その1: ENI 1~ENI34) ENI 1~ENI34の33資料は, いずれも76~266 [BP]の範囲にはいる¹⁴C年代であった。これは較正年代にして17世紀後半から20世紀前半に相当する結果である。17世紀後半から20世紀前半の較正曲線が横ばいになっているために,¹⁴C年代の誤差は数十年であっても, 較正後の年代は広い誤差範囲を示すことになる。17世紀後半以降の資料について¹⁴C年代測定法が高精度の年代を提示できない原因は, 1830年代にその本質を持つ産業革命以来, 石油・石炭・天然ガスといった化石燃料の大量利用にある。¹⁴Cをほとんど含まない古い年代をもつ二酸化炭素が大気中に放出されてきた結果, 特に20世紀前半に生育した動植物の¹⁴C年代は, 見かけ上古い値を示すことになり, 17世紀後半~18世紀頃の資料と同程度の値を示すのである。このような問題があり, 17世紀半ば以降の資料について得られる較正年代は三百年近い幅をもち,¹⁴C年代測定法では17世紀後半から20世紀前半までのどの時代の資料であるかを判定することはできない。ENI 1~ENI34の¹⁴C年代がこの時期にあたり, 17世紀後半から20世紀前半という誤差をもつものであった。ただし, ENI 2, 3, 4の三資料については, その墨書から制作年代を明治7(1874)年以前に求められる。また, 19世紀後半のロシアのアムール川下流域・サハリンへの進出に伴い山丹交易が衰退していったこと, 明治元(1868)年に函館奉行所が山丹交易の廃止を決定したことを考え合わせると, これら蝦夷錦が19世紀末以降のものである可能性は低く, 17世紀後半~19世紀半ばのものと推定することができる。また, いずれの資料についても, 17世紀前半以前にさかのぼるものではないことも,¹⁴C年代測定

の結果は示しており、清代に制作されたものであると結論付けることができる。

5. 結論・考察 (その2: ENI35) ENI 1～ENI34 の ^{14}C 年代が 76～266 [BP] に分布しており、その較正年代が 17 世紀後半から 20 世紀前となるのに対して、ENI35 の年代値は大きく異なる値を示している。すなわち、ENI35 の ^{14}C 年代は 539 ± 24 [BP] であり、その較正年代は 14 世紀前半と 15 世紀前半、すなわち元代末期から明代初期に相当する結果である。清代以前の「北のシルクロード」の存在を示す古記録には、前述のとおり元代後半の「敦武校尉管軍上百戸張成墓碑」と、明代初期の「永樂碑」・「宣德碑」・『明実録』がある。後者の記述に従い、明朝のアムール下流域・サハリンへの介入を概観すると次のようになる。亦失哈は、「官軍と巨船」をともないアムール川下流域に遠征し、1411 年に河口から約 100km さかのぼったアムグン川が合流する地（現在のティル村）に軍事行政機関としての奴児干都司(ヌルガン都司)を設置した。一旦帰還した後に再度遠征し、アムール川下流域・サハリンの諸民族に対して、明朝への服従を強要する一方で衣服・器用・穀米を下賜するという朝貢交易を開始した。さらに、1413 年にはティル村に永寧寺と永樂碑を建立した。亦失哈は何度か奴児干都司に遠征したが、1432 年に遠征した際に、ニヴフとツングース系の「野人」によって永寧寺が破壊されていた。そのため、これを再建し、1433 年にその経緯等を記した宣德碑を建立した。以上が、古記録の記述の概要である。亦失哈は永樂帝の時代に五回、次の宣德帝の時代に二回の計七回の遠征を行っている(楊, 2008)が、最後の遠征になる 1432 年には永寧寺が破壊されているなど、奴児干都司の維持は容易ではなかったことがうかがえる。この遠征の後、宣德帝が没した 1435 年あたりからこの地における明朝の支配力は弱まり、奴児干都司の機能は形骸化をしはじめる。サハリン諸民族と明朝の交易は 15 世紀後半まで続くが、1430 年代以降弱体化した奴児干都司は 16 世紀前半には廃止されるに至る(榎森, 2003)。さて、ENI35 の較正年代は、 1σ で 1355～1355, 1401～1421 [cal AD], 2σ で 1328～1344, 1394～1433 [cal AD] とある。14 世紀前半も誤差範囲に含まれるが、この年代の確率分布は、明朝のアムール川下流域・サハリン諸民族への朝貢交易が最も活発化した 15 世紀前半で高くなっている。「北のシルクロード」の原形が明代・元代にまでさかのぼる可能性が古記録により示されていたが、この資料は 15 世紀後半に中国製の絹織物がアムール川下流域もしくはサハリンの諸民族に与えられていたことを示す物証であるといえる。さらに、15 世紀後半以降には奴児干都司が実質的にその機能を停止していたことを考慮すると、この資料が亦失哈によってアムール川流域にもたらされた朝貢交易の下賜品であった可能性を考えることができる。元代・明代にアムール川下流域・サハリンにもたらされた中国製絹織物に対する名称はまだ決まっていない。清代のものであれば蝦夷錦としてよいのだが、これは現在まで明代以前の蝦夷錦が発見されていないためでもある。そこで本稿では、以下、明代以前の中国製絹織物を「蝦夷錦」と括弧付きで表記するものとした。

6. 結論・考察 (その3: サハリン州立郷土誌博物館に収蔵されているニヴフの帽子) 元代末期から明代初頭にかかる年代値を示した ENI35 の資料は、サハリン州立郷土誌博物館に収蔵されているニヴフの帽子の一部である。この帽子は 1966 年サハリン島北西岸のルポロヴォで採集された資料であり、ニヴフの花嫁衣裳の帽子といわれている。青地の蝦夷錦を用いた毛皮の帽子である。しかし、補修のためにこの青地の蝦夷錦(図1)が解体された際に、その下から赤地の蝦夷錦を主体とする帽子(図2)が発見された。また、赤地の他にも、茶色・こげ茶色・山吹色の生地も確認された。古くなった赤地主体の帽子を繕うために、青地の蝦夷錦を外側に配したことが考えられたため、青地(ENI29)・赤地(ENI30)・茶色(ENI31, 32)・こげ茶色(ENI33, 34)・山吹色(ENI35)の各部位の年代測定を行った。その結果、青地・赤地・茶色・こげ茶色の生地はいずれも 17

世紀後半以降の資料であるのに対し、山吹色の生地は14世紀前半ないし15世紀前半との結果を得たわけである。この帽子が古い生地を内側に残し何度か繕われながら伝世してきたものであるのか、長期間保管されていた古い山吹色の生地が赤地帽子を制作する際に用いられたのかなど、帽子・生地の詳細な伝世過程については不明のままであるが、いずれにしても元代末から明代初頭に制作された「蝦夷錦」が帽子の内側に残され伝世していたことは確実である。



図1. 青地の帽子



図2. 赤地主体の帽子

7. 結論・考察（その4：明代以前の「蝦夷錦」） 本研究では、墨書をもつものを含めた33点の蝦夷錦が清代に制作されたものであることを¹⁴C年代測定法によって明らかにするとともに、ENI35の年代から、いわゆる「北のシルクロード」の原形が明代まで遡ることを示す物証の一つを得た。奴児干都司における明朝とアムール川下流域・サハリンの諸民族との交易が活発化した15世紀前半、津軽半島においては十三湊を拠点にした津軽安東氏が最盛期を迎えていた。加えて、北海道南部の渡島半島には道南十二館という館が築かれており、その館主は安東氏の家臣であった。こうした状況を考えると、奴児干都司から下賜された「蝦夷錦」が、アイヌの人たちの手を経て、道南十二館の館主から安東氏へともたらされたものと考えられる。日本側の古記録・古文書で、15世紀前半の「蝦夷錦」伝来を記述したものはないが、明代末期の16世紀末には、古記録上に「蝦夷錦」が登場する。松前藩の正史である『新羅之記録』下巻に残されている記述である。ここに、文禄二(1593)年、蠣崎慶広(後の初代松前藩主)が肥前名護屋城において徳川家康に拝謁した折に、「唐衣」を献上したと記されている。この唐衣には、アイヌ語で山丹の着物を意味する「サンタンチミブ」と読みが付されており、加えて「奥狄唐渡の嶋より持ち来たりしもの」と説明が加えられていることから、「蝦夷錦」とみることができる。また、1669年のシャクシャインの戦に際しても蝦夷錦に関する記述が『津軽一統志』にある。他に「蝦夷錦」ではないが、曹操の建立した銅雀台の瓦で作製したと伝えられる硯が1485年にサハリンから北海道にもたらされたという記述が、『福山秘府』の文明十七乙巳(1485年)の条に残されている。本研究で、元末明初の年代を示した「蝦夷錦」はサハリンに伝世する資料であったが、14-15世紀の「蝦夷錦」が北海道や東北地方に伝世している可能性も十分ある。また、それ以前にも「蝦夷錦」が日本に伝来していたことを示唆する史料もある。それは、平安末期の関白藤原忠実(1078-1162)の談話を大外記中原師元(1109-1175)が筆録した『中外抄』という古記録である。これは保延三(1137)年から仁平四(1154)年までの記録であるが、その上巻の康治二(1143)年八月一日の条に「…琵琶はめてたけれとも袋ニ入るゝニ玄上ハ自本

不入袋也…又宝物袋ハえそいはぬ錦などを袋可用ニ下品生絹を縫袋ヲ入たるなり」(『中外抄・富家語』勉誠社文庫, 1980, 宮内庁書陵部蔵柳原家旧蔵本影印)とある。これに従えば, 12世紀中葉に, 「蝦夷錦」と思われる絹織物が既に日本に伝来していたことになる。「蝦夷錦」の記載としては, 12世紀中葉は飛び抜けて古いことから「えそいはぬ錦」が書写に際しての衍字・誤写であることも考えられる。しかし, 宮内庁書陵部蔵柳原家旧蔵本は, 弘長三(1263)年書写の三条西家旧蔵本(現所蔵者未詳)を直接書写したものであり良質の本文を残している写本とされており(池上, ; 宮田, 1980), 衍字であるとしても13世紀中葉のものであることになる。しかし, 「えそいはぬ錦」は「得も言われぬ(立派な)錦」とも読めるし, 「得も言われぬ錦」と「蝦夷錦」をかけた語, 「蝦夷の言われぬ色(山吹色)の錦」とも読める。また奇しくも, 本研究で元末明初の年代を示した「蝦夷錦」は言われぬ色であった。現存する蝦夷錦には, 山吹色もあるが赤色・青色のものが多い, 『中外抄』にあえて「えぞいはぬ錦」と記述されていることは, 明代以前の「蝦夷錦」は山吹色のものが主体であったのだろうか。本研究において明代以前の「蝦夷錦」の存在が一点確認されたが, 新たな課題・疑問も多く生み出された。蝦夷錦の年代測定という本研究は, ^{14}C 年代測定法分野では極めて新しい時代を対象としている。しかしながら, 山丹人・アイヌの交易によって蝦夷錦の伝来した「北のシルクロード」は, 古記録・古文書等の少ないフィールドであり, それゆえ ^{14}C 年代測定法が有効な情報をもたらさう分野である。今後も, ^{14}C 年代測定法はもとより, 染料分析や組織観察・素材同定などの自然科学的手法で「蝦夷錦」・「北のシルクロード」を捉えていきたいと考えている。

8. 謝辞 本研究の意義をご理解いただき, 資料を提供していただくとともに, 多くの有益なご助言を賜りました故 池田 良市 氏, 池田 美智子 氏, 伊達 東 氏, 北海道江差町教育委員会 宮原 浩 氏, 北海道松前町法源寺 金澤 貫道 氏, 北海道松前町教育委員会 久保 泰 氏, なまはげ館 小早 淳 氏, 秋田県男鹿市大龍寺住職 三浦 昭翁 氏に心より感謝いたします。また, 厚岸町教育委員会海事記念館 熊崎 農夫博 氏, 厚岸町教育委員会海事記念館 桂川 実 氏, 男鹿市教育委員会 伊藤 直子 氏, 男鹿市教育委員会 泉 明 氏, サハリン州立郷土誌博物館のペンスカヤ氏ならびにローン氏には, 資料採取の折にお世話になるとともに, 多くの有益なご助言を賜りました。記して深く感謝する次第です。本研究では, 独立行政法人日本原子力研究開発機構の施設利用制度を利用し, タンデトロン加速器質量分析装置(JAEA-AMS-MUTSU)での ^{14}C 年代測定を行った。また, ^{14}C 年代測定を行うにあたっては, 甲 昭二 氏, 田中 孝之 氏をはじめ日本原子力研究開発機構青森研究開発センターむつ事務所の皆様には大変お世話になるとともに, 有益なご助言を多く賜りました。記して深く感謝する次第です。

9. 参考文献

- 『中外抄・富家語』勉誠社文庫, 1980.
- 榎森進(2003) 北東アジアから見たアイヌ. 菊池勇夫編『蝦夷島と北方世界』吉川弘文館, 126-166.
- 池上洵一(1998) 『中外抄』『富家語』解説. 『親日本古典文学大系 32 江談抄 中外抄 富家語』岩波書店, 606-621.
- 宮田裕行(1980) 解説. 『中外抄・富家語』勉誠社文庫, 195-212.
- 中村和之, 小田寛貴(2008) 蝦夷錦の試料調査とその概要. 平成17~19年度科学研究費補助金(基盤研究(C)) (課題番号: 17500694) 研究成果報告書「蝦夷錦の制作年代と流通に関する研究」, 12-16.
- 小田寛貴, 中村和之(2008) 加速器質量分析法による蝦夷錦の放射性炭素年代測定. 平成17~19年度科学研究費補助金(基盤研究(C)) (課題番号: 17500694) 研究成果報告書「蝦夷錦の制作年代と流通に関する研究」, 12-16.

る研究」, 17-34.

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Back, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, G., van der Plicht, J. and Spurk, M. (1998) INTCAL 98 Radiocarbon age calibration, 24,000-0 cal BP. *Radiocarbon*, 40(3), 1041-1083.

楊暘(2008) 永寧寺碑文と北東アジア — 奴兒干都司と黒龍江下流域・サハリンの先住民族との関係を中心に — . 菊池俊彦・中村和之編『中世の北東アジアとアイヌ — 奴兒干永寧寺碑文とアイヌの北方世界 — 』高志書院, 15-41.